学位報告１－１

別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号

氏　　名　太田智之

論　文　題　目

Relationship between severity of renal impairment and 2-year outcomes after sirolimus-eluting stent implantation

(シロリムス溶出性ステント留置患者の２年後の臨床成績に及ぼす腎機能障害の影響について)

論文審査担当者

主　査　委　員　名古屋大学教授　古森公浩

委　員　名古屋大学教授　押田芽衣

委　員　名古屋大学教授　松尾清一

指導教授　名古屋大学教授　室原豊明

論文審査の結果の要旨

今回の研究結果では、非透析患者であれば、軽度から中等度の腎機能障害患者であっても、シロリムス溶出性ステントを使用することで、心血管イベント発生率の低下が見込めることが分かった。しかしながら、透析導入患者に関しては、シロリムス溶出性ステントを使用しても、依然高いステント内再狭窄率と心血管イベント発生率であった。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 透析症例と非透析症例の PCI を検討した最近の研究では、初期治療成功率は、ロータブレータの普及で石灰化病変への PCI が容易になったため、両群に有意差は認められなかった。再血行再建率は透析群で 19.4%、非透析群で 6.6%と薬剤溶出性ステントを用いても透析群の PCI の成績の改善は認められなかった。再治療率が高い理由として、透析群には糖尿病患者が多く、病変背景として石灰化病変、小血管病変、瀰漫性病変が多く、初期治療は成功したとしても再狭窄が起こりやすいことが考えられた。
2. 糖尿病患者では非糖尿病患者と比較し、ステントによる血管内皮障害に対し、血管平滑筋細胞が増殖しやすく、その結果、新生内膜の過形成が起こるため、再狭窄率が高いと考えられる。２点目としては、糖尿病患者は血液粘度が高く、血管内皮障害部分に血栓形成しやすくなり、血栓形成に伴う再狭窄も起こりやすいと考えられる。また、糖尿病患者は病変背景として、石灰化病変、瀰漫性病変、小血管病変の割合が多く、ステント拡張不良や圧着不良が起こりやすいことも再狭窄率が高い理由と考えられる。
3. 非 CKD 群では糖尿病群 14.9%、非糖尿病群 7.4%、P 値 0.025 と糖尿病群にイベントが有意に多かった。CKD 群は糖尿病群 17.1%、非糖尿病群 9.9%、P 値 0.095、HD 群は糖尿病群 33.3%、非糖尿病群 20%、P 値 0.378 と、糖尿病群に多い傾向であったが、統計学的有意差は認められなかった。
4. CKD 群 222 例のうち、Stage3 が 206 例、Stage4 が 13 例、Stage5 が 3 例と 90%以上が Stage3 の症例であった。イベント数はそれぞれ、24 例（11.7%）、3 例（23.1%）、0 例（0%）であった。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙２

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　太田　智之
試験担当者	主　査　古森公浩　柳井芳博　松尾清一 指導教授　室原豊明	

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 透析症例と非透析症例のPCIの成績について
2. 糖尿病患者にステント留置後に再狭窄惹起されやすい理由
3. 糖尿病合併の有無で主要心血管イベント数の検討
4. CKD stage別の症例数と主要心血管イベント数について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙３

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　太田　智之
学　力　審　査 担　　当　　者	主　査　古森公浩　柳井芳博　松尾清一 指導教授　室原豊明	

（学力審査の結果の要旨）

名古屋大学学位規程第１０条第３項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。